

平成27年度入試【3年次編入学】

【日本語学・日本文学】

(法文学部 言語文化学科)

注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は1ページである。解答用紙は2枚である。
指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところへ記入すること。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

一 次の和歌と詞書を読んで後の問いに答えよ。

山里に住み侍りける頃、あらし激しきあした、前中納言頭長がもとにつかはしける

後徳大寺左大臣

夜はに吹くあらしにつけて思ふかな都もかくや秋はさびしき

返し

前中納言頭長

世の中にあきはてぬれば都にも今はあらしの音のみぞする

『新古今和歌集』卷十六・雑歌上による

問一 傍線部Aを口語訳せよ。

問二 傍線部Bを、掛詞に注意しながら口語訳せよ。

二 現代日本語の表記において、漢字、平仮名、片仮名という三種の文字体系がどのように機能を分担しているか、例を挙げながら簡潔に説明せよ。

三 次の漢詩は、中村笠山（幕末明治期の漢詩人。旧広瀬藩藩儒）の「咏史」である。読んで以下の問いに答えよ。設問の都合で返り点や送り仮名を省いたところがある。

郡^ノ良^ノ凶^ノ勢^リ張^リ、焚書不復法先王。腐
儒^{メヨ}休^レ掉^ル雷同^ノ舌。千古英雄秦始皇。

問一 押韻字をすべて指摘せよ。

問二 承句「焚書不復法先王」（返り点、送り仮名を省いている）を平仮名だけで書き下せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問三 転句「腐儒休掉雷同」を、わかりやすい口語に訳せ。

四 以下の問いに答えよ。

問一 『更級日記』について知るところを述べよ。

問二 近世中期の小説について知るところを述べよ。

問三 次の文学史的事項の中から一つを選び、知るところを簡潔に述べよ。

尾崎翠

有島武郎

菊池寛

川上弘美

幸田文

新体詩

硯友社